

【第4回総合計画策定審議会】

■日時：令和4年9月13日（火）14：00～16：00

■場所：中城村役場議会委員会室

■出欠：

- ・出席：神谷委員長、新垣委員、名幸委員、山城委員、安田委員、平安委員、米須委員、儀間委員
比嘉（春）委員、伊東委員、伊佐委員
- ・欠席：比嘉（善）委員
※張世委員、与那嶺委員は村議選のため離職、委員の追加補充はなし
- ・事務局：企画課（比嘉係長）、ST（森口、首藤）

■次第：

1. 開会
2. 報告事項
 - （1）前回審議会のご意見と対応方針（資料1）
 - （2）パブリックコメントにおける意見報告（資料2）
3. 検討事項
 - （1）第五次総合計画（素案）について（資料3）
 - （2）重点プロジェクトについて（資料3）
4. その他
5. 閉会



■議事録：

1. 報告事項

(1) 前回議事の対応方針（説明：ST 森口）

- 神谷委員長 : 質問があればお願いします。
- 比嘉（春）委員 : 村内のコミュニティセンター等をつくるという事を検討するということだが、具体的な場所などは決まっているか。
- 事務局（比嘉） : 既存の老人福祉センターについては、今年度解体は決まっているが、再建するかも含めて、場所や規模についてもまだ何も決まっていない。
- 比嘉（春）委員 : 計画にあげているということは建設が進むという事か。
- 事務局（比嘉） : 計画の中に検討するとは書くが、現段階でどうなるかは明確ではない。

(2) パブコメの意見報告（説明：ST 森口）

- 神谷委員長 : コメントについての対応はどうするのか。
- 事務局（比嘉） : どうするのかを事務局で検討している段階。個別にこうするとはまだ言えない。
- 名幸 : パブコメに対する対応方針の公表はこれからか。
- 事務局（比嘉） : 個別回答はしないという方向であるが、全体の対応方針については検討中。
- 神谷委員長 : 少なくとも方向性については公表したほうが良い。今回提示されている計画案については、パブコメの意見は反映されているのか。
- 事務局（ST 森口） : されているものもあれば、されていないものもある。防災計画については、今までの総合計画の中で取り上げていなかったの、今後どう取り扱うか検討中。基本計画は前期だけの計画なので、中期後期の取組みになりそうなものについては、その旨をフィードバックする必要がある。
- 神谷委員長 : 反映されている部分もあるということで理解した。

2. 協議事項

(1) 素案について（基本構想から目指す姿1まで）（説明：ST 森口）

- 神谷委員長 : 説明では、中城村→中城、むらづくり→まちづくりという表現に替えたいという事だったがいかがか。
- 儀間委員 : 若者が「村」という言葉にネガティブな印象を持っているというのは、庁内から出た意見なのか、実際にアンケートなどから出た意見なのか。
- 事務局（ST 森口） : 庁内会議での意見で、そういう傾向があるのではないかというものなので、全ての若者が「村」に対してネガティブに捉えているわけではない。もう「村」という感じではないという意見もある。戦略的に「村」という言葉を使わないメリット、今後伸びていく地域として打ち出したい、という意識もあるのではないか。
- 儀間委員 : 村であることのメリットもあると思う。
- 事務局（ST 森口） : その議論も出たが、これからも発展していくという意思表示として「村」を外すというのが庁内のひとつの結論。異論等もあると思われるので、庁内委員会の方に審議会意見として返す予定。
- 伊東委員 : 「村」とあるというのはアイコンとしていいと思っていたので、びっくりしている。全国的に市町村合併などで「村」は少なくなっているの、村が村であることを消極的に捉えるのは残念に思う。他の地域では「日本一〇〇の村」のようにしてアピールしている所もあるので、消すのはもったいないと思う。
- 名幸委員 : 事務局の考え方も良くわかるが、個人的には村民という言葉にアイデンティティを感じている。基本構想の言葉自体はすんなり入るのでいいと思うが、なぜ「村」

- を取るのかは、もう少し住民に対して丁寧な説明が必要なのではないかと思う。
- 安田委員 : 今後上地区と下地区の人口格差も含めて、下地区が発展していけば人口もさらに増えていく。そうなれば、村から町にかわることがあるかもしれないが、今後発展していくことを考えると、村に固執するのはどうなのか。読谷村は日本一人口の多い村を誇りにして町政をとっていないし、そういう考え方もある。中城も下地区が発展して今後は…と考えると村を取ってもいいと思う。「村」という呼称をアイデンティティとして残すという意見も理解できるので、もっとたくさん意見を出し合って決めていくべきではないかと思う。
- 神谷委員長 : 中城村と言うことはあまりなくて、中城という事の方が多い。市・町・村と比較したときに「村」のイメージが良くない、と庁内の意見として出たのだろう。市町村名が変わるわけではないので、意気込みとして村を抜くという考え方もあるが、村としての誇りがある、ということだと思う。
- 山城委員 : 与那原の第五次総合計画の将来像は最後に町がついていない。町民、村民の議論でなく、与那原町を活気づけていこうという気持ちだったと思う。理由をもっと明確なものにすれば、伝わり方も変わったのではないかと。
- 神谷委員長 : 将来像について村を取ることにについては、異論ないと思う。村民だろうが住民だろうがやる事には変わらない。むしろ村に誇りをもって頑張ってもらいたいというエールなのでは。
- 事務局（比嘉） : 策定委員会の議事録を読んだ中では、村長の中でも村政か町政かの話ではなく、中城はポテンシャルが高いのでもっと発展していくという意気を込めて「まちづくり」という言葉を使いたいという思いを感じた。昔は「村民」という言葉でからかわれていた事もあったので、年代が上の人にはネガティブなイメージがあるかもしれないが、今回の議論は前向きに捉えてまだまだ発展してこうという思いがある。
- 儀間委員 : 学生の頃は村民という事で馬鹿にされたことがある。でもこの年になると村民で良かったと思う。アイデンティティの話も出たが、村でも十分ポテンシャルをあげていくことができる。今の話を聞くと、悲しい気持ちになる。
- 平安委員 : 中城は可能性があるし、他の地域から見るとうらやましがられる所。南上原にしても子育て世帯には特に憧れの場所。村をつくるかどうかではなく、今現在とてもキラキラしている中城なので、そこをアピールしていく方が良い。ずっと住み続けている人の郷土愛も大切だし、移住してきた方の憧れの場所でもある。村か町かという枠にとらわれず、みなさんの村を愛する気持ちを大切に計画を立てていくことが出来たら、村がついてもつかなくてもいいと思う。
- 神谷委員長 : 事務局で検討を。基本計画の目指すまちの姿1についてご意見があれば。
- 山城委員 : 総合計画は村の最上位計画。分かりやすいように体系図のようなものを見開きなどで付けたほうがいいと思う。それにぶら下がるように、こういう施策があるというように、分かりやすく示すことも必要。
- 事務局（比嘉） : 第2回の審議会資料に似たものがあると思うので、そのような形でつけたいと思う。
- 山城委員 : 与那原でも同じような意見があったので付けている。参考になれば。
- 平安委員 : 保育幼児教育の充実について。先日もバスの中に園児が取り残されて…という事件があった。園の体制もあると思うが、我々も保育士不足で派遣を入れて現場を回している中で、村として保育士確保に対する取組みは考えているか。今あげられている取組みを見ても、そもそも人がいないと充実させることは難しい。ゆとりのある保育も大切だし、適切に子ども達を見て行くためには村としても協力していただけると、より良い子育て支援が出来ると思う。
- 事務局（比嘉） : 各課ヒアリングの中で話は出ていた。この基本計画に入れるか、その下の実施計画に入れるかというのは担当課と調整したい。加配保育士も支援を入れてやっている

が、それを拡充するなど含めて検討したい。

平安委員 : 加配保育士ではなく、一般の保育士のレベルでの支援が必要。
事務局 : 他の自治体で、実際に保育士確保のために支援している事例があれば教えてほしい。
(ST 森口)

平安委員 : 県外だと住宅補助、自治体による給与の補填など。基本は金銭的な支援が多い。
神谷委員長 : 保育だけではなく介護の現場などでも人手不足が言われている。以前は失業率が高かったので、働く場所(企業)を増やす方向に進んでいたが、現在は明らかに人手不足。その中でいかに人手を確保するかという問題と、いかに生産性を高め効率化を図るかという問題の2つがある。子育て分野は人手もかかるし効率化もしにくい分野。総合計画の中では、まず保育士だけに捉われずに、事業者の効率化を支援する施策と人材を確保するため施策があって、その中の対象の一つとして保育士があるという立て付けの方が書きやすいのではないかと。そうすると目指す姿の5に書くほうがいいかもしれない。

事務局(比嘉) : 検討させていただく。

神谷委員長 : 教育カリキュラムの充実の所は内容的にカリキュラムという言葉にしない方がいいと思う。カリキュラムと書くと教育の中身を含めた話になるので表現を改めた方がいい。食育については、肥満も関連するものとして考えると、県の健康沖縄21を関連計画として入れておく方が適切ではないか。農業振興ビジョンは食育ではなく地産地消の意味合いが強い。

事務局 : 教育カリキュラムについては承知した。肥満防止に関しては健康づくりの推進の所にも位置付けているので、担当課に確認して再掲にするか連携という書き方にするかは検討する。

神谷委員長 : アレルギー対応給食については、現実的に対応が可能かどうかをセンターの栄養士さん含めて確認したほうがいいのでは。どこまで出来るのかはセンターの能力や人材によって変わる。

事務局 : ヒアリングでも今の設備では難しいと言われているので、書き方は確認する。
(ST 森口)

※資料説明続き(目指す姿2~7、重点施策案)(説明:ST 森口)

安田委員 : 重点施策についてはすぐに取り掛かるのか。

事務局 : すぐ取り掛かるという認識だが、いきなり事業になるわけではなく、まずは計画やプロジェクトチームを作り、議論する場を設けていく。具体的な事業化については現時点では回答できないが、次年度からプロジェクトチームが動き出す予定。
(ST 森口)

安田委員 : 重点施策は基本計画の中には入れないのか。

事務局 : 表記としては別枠で提示をしていく。
(ST 森口)

山城委員 : 中城で物流拠点という話を聞いた気がするがどうか。県の計画だったかもしれない。

事務局(比嘉) : 中城ではなく、中城湾口の埋め立て地を県の計画でというのは聞いたことがある。

比嘉(春)委員 : 防災設備の整備について。公共施設は上地区には南小しかないが、今後は避難施設とかどうするのか。

事務局(比嘉) : 議会でも上に公共施設をとという話はある。防災面を考えると役場庁舎が被災しないとは限らない。個人的には代替施設として上地区にも必要かと思うが、今後、村にどういった施設が足りないのかということから検討しないといけない。何かの公共施設と一緒に防災拠点をという考え方にはなると思う。

比嘉(春)委員 : 上地区には空いている土地がないように思うが。

事務局(比嘉) : 現状を考えると、分校の跡地などが県道沿いでもあるし候補になるかと思う。

神谷委員長 : 自転車活用推進計画は県の計画に基づいて市町村で計画をつくる必要があるのでは、

表現の訂正を。

P70の自主防災計画については地区防災計画策定まで突っ込んで書くほうがいい。

「定期的な地域防災計画の検証」とあるが、地域防災計画の点検は法的に毎年必ず行わないといけないものなので取組みとして書くものではない。

交通安全対策については「通学路安全プログラム」や「ゾーン30プラス」という言葉は入れるべき。

避難行動要支援者については、個別支援計画自体は努力義務化されているので、もうすでに始めていかないといけないもの。表現を改めた方がよい。

全体の立て付けとして基本施策1~18は並列だが、19とDXについては全てにまたがること。広域連携は共同のまちづくりだけだが、今の書き方だと共同のまちづくりが中部広域のための理由作りみたいな表現になっている。中城と北中の境界辺りになんらかの施設を整備するという事もあるし、中城も北中も下地区は津波の被害が想定されるが、境界の部分だけ少し標高が高いので、災害避難やコミュニティハードを検討するなど、多様なものを含めた北中との連携があると思う。また北中だけでなく与那原や西原との連携もあると思う。なので施策の書き方としては19とDXの話については全体の話にまたがる表現にした方がよい。

- 名幸委員 : P78 行財政について。地方法人税額のデータは仮なのか意図があるのか。
事務局 : 特に意図はない。これから担当課等と整理する内容で、あくまで例として入れているだけ。
(ST 森口)
伊東委員 : 子どもに対する交通安全教育を各家庭に任せられている部分があるように思う。村で交通安全祭りみたいな感じで城跡の活用などと絡めて、村内外のコミュニケーションも取れるようなことをすればおもしろい活動になるのでは。
事務局(比嘉) : 参考にさせていただく。
神谷委員長 : カーボンニュートラルやDXなど国が募集していることに対して村が手を挙げるというのも選択肢。手を挙げないという選択肢もあるが、パブコメに答える形でどう考えているかを一度庁内の会議でも図ってもらえれば。
会議の後半が駆け足だったので、追加の意見などがあればメール等で村の方に連絡を。審議会はあと1回で終わるのか。
事務局(比嘉) : 予定としてはあと1回。12月議会で提案ということなのでスケジュール的にはかなりタイト。
神谷委員長 : 次の審議会にはこれが清書されるだけなのか。中身的にはどうなのか。
事務局 : 次回の審議会には、全頁この体裁で清書を予定している。中身については全課のヒアリングと庁内委員会で確定させ、同時にもう一度パブコメを村民に出し、それを踏まえたものを最終審議会でみなさんに見ていただく。最後の審議会でも意見は出ると思うので、それを反映させるためにもう一度会議を開くことは考えているが、スケジュール的に調整が必要。
神谷委員長 : パブコメを出して審議して、それを直したものを出すというのが普通のやり方かなと思う。次回が最後のとりまとめだと、委員長預かりのボリュームが多すぎるので、あと一回プラスアルファがあるかと思っておいてもらった方がいい。それを含めてスケジュールを検討していただければ。
事務局(比嘉) : 今後の予定。9~10月で各課ヒアリング、10月にパブコメ。11月に審議会ができるかは精査させてもらう。12月の議会で提案し、承認されれば令和5年4月から計画がスタートする流れになる。今後ともよろしくお願ひします。

— 終了 —